

今日は大学研究所の出張で、江の島の近くにある「湘南白百合小学校」（藤沢市片瀬海岸）3年生の授業をしてきました。どの子も探究心旺盛で、すばらしいと思いました。

その帰りに戸塚の知人の家に寄ったのですが、そこから優勢な積乱雲が見えました。積乱雲というのは積雲が発達して、圏界面（対流圏と成層圏の境目）にまで達したものを指します。多くの積乱雲は、その根元で雷雨になることから「雷雲」とか、遠くから見た形状が「かなとこ」に似ているので「かなとご雲」とも呼ばれます。この日の積乱雲は典型的な「かなとこ型」でした。

戸塚から見た積乱雲はほぼ真北で、距離は相当に遠いように見えました。あとで気象庁のホームページで確認すると、埼玉県北部から栃木県南部に雷雨をもたらした雲とわかりました。

尚、積乱雲のことを「入道雲」と呼ぶことがありますが、厳密にはこれは誤りです。入道雲というのは、正確には積乱雲にまで発達する前の「雄大積雲」や「塔状雄大積雲」のことです。

(2023年7月上旬／神奈川県横浜市)

